

# 金融市場パネル

2014. 7. 3

翁 百合

# 銀行貸出市場を巡る現状

- 銀行の貸出への取り組みはここへきて積極化、残高も積み上がりの傾向
- 大企業、優良先中心⇒中小企業向けもようやく増加の傾向、幅広い業種へ

しかし・・・

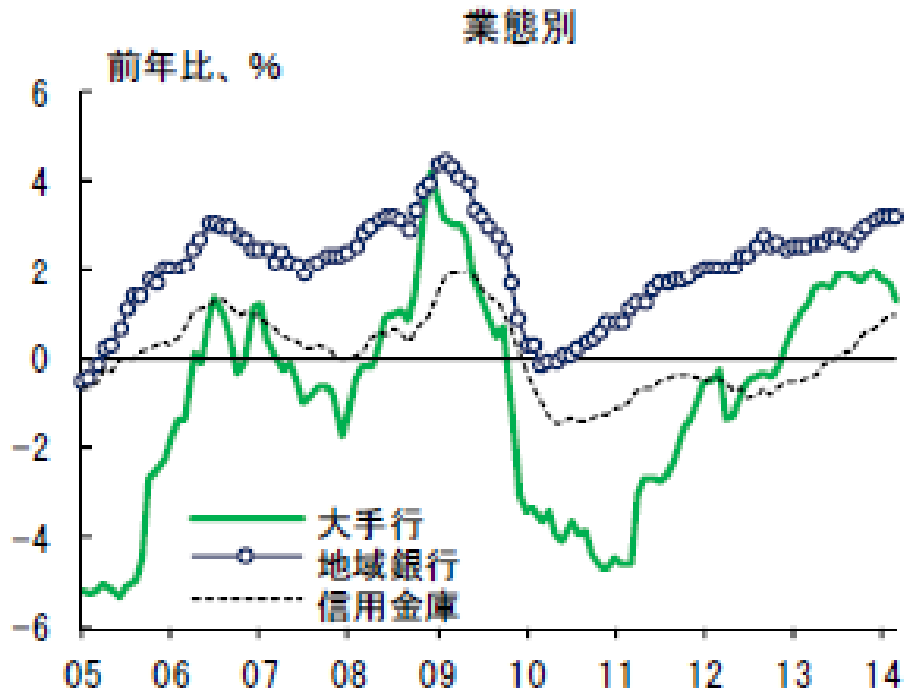
- 超低金利の継続、オーバーバンクといった構造要因は変わらず
- 中核都市の大企業向けに低金利競争が持続⇒利ざやは低下傾向が持続⇒銀行収益は貸出残高の伸びほどには改善せず
- 銀行の貸出サービスも全体としてみると同質的な状況が持続

ただし、一部には貸出の質的な変化の兆しも・・・

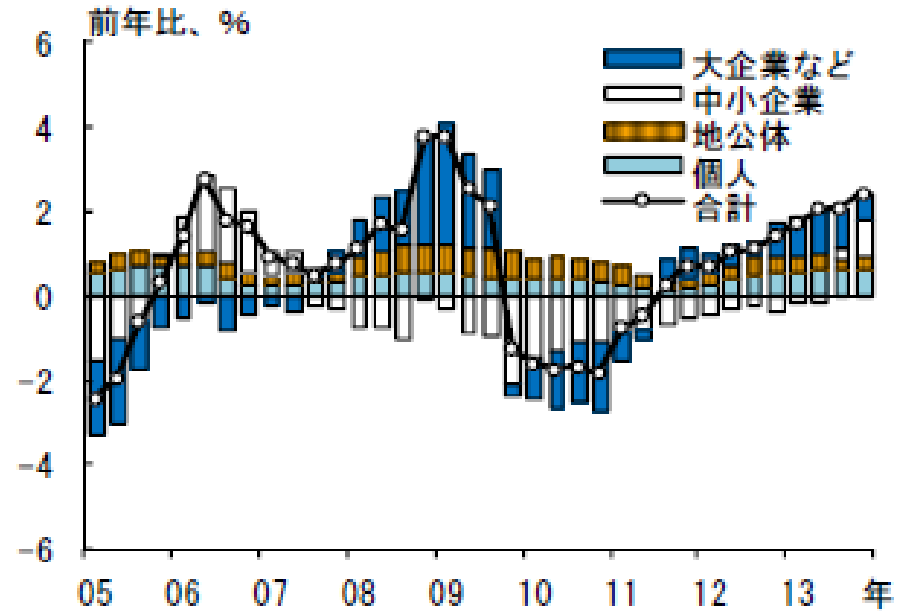
- 企業の非金融サービスに対するニーズの高まり
- 株価の上昇などマインドの改善に伴い、再生への取り組みを積極化する銀行も

# 銀行貸出残高の動向

## 金融機関の国内貸出残高

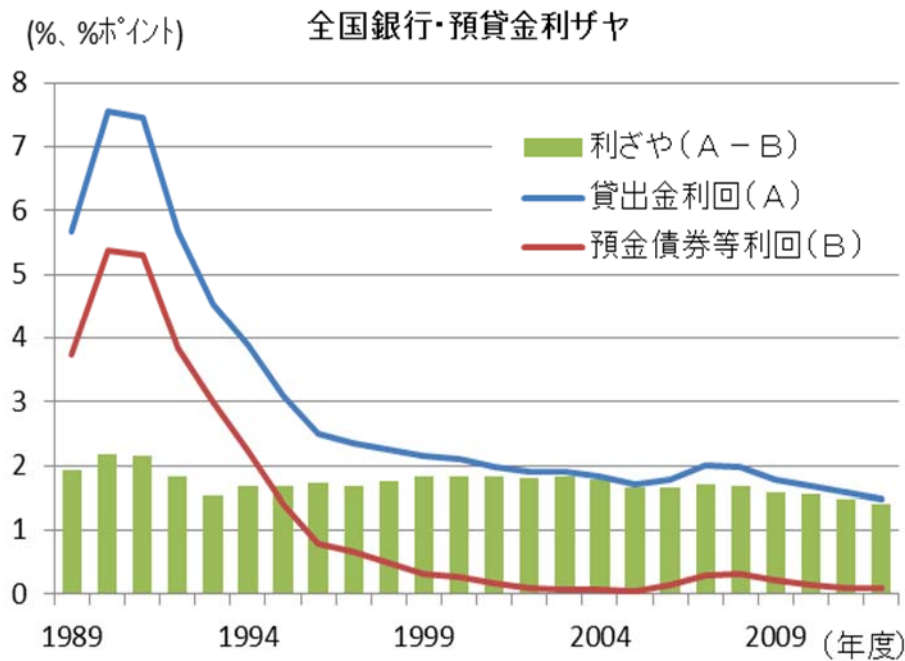


## 金融機関の貸出先別貸出残高



(注) 集計対象は銀行と信用金庫。直近は13年12月末。  
 金融業・保険業向けを含む。  
 (資料) 日本銀行

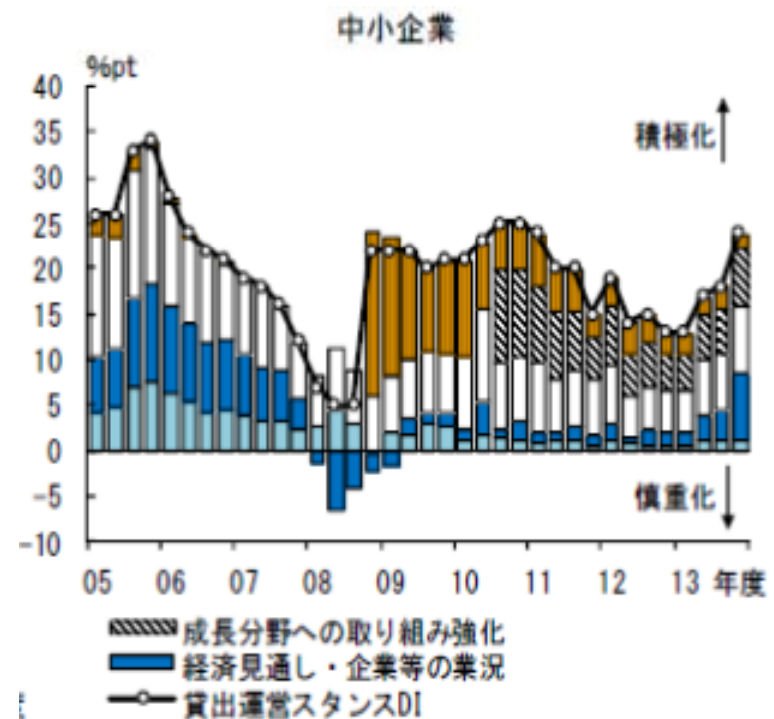
# 銀行収益および貸出スタンス



(資料) 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」

(注) 2013年度は中間決算の数値。

## 金融機関の貸出運営スタンスDI



2014年4月金融システムレポート

# 今後の銀行融資の課題

- 当面の低金利、限られた優良先に巡る厳しい貸出競争は今後も持続すると見込まれ、その意味で銀行収益を巡る環境の厳しさは変わらない
- 人口動態の今後の急激な変化を踏まえれば、多くの企業が、そのビジネスモデルを変化させ、「稼げる」ようになることが必要。本来そうした環境の激変の中で銀行が果たすべき役割はきわめて大きい。
- 具体的には、銀行は、そのネットワークやノウハウを活用し、企業の再生、ビジネスモデル変革を側面からサポートする必要。そうしたサービスの提供によって他銀行と差別化する必要。特に重要なのは、スポンサーとなり得る事業会社とのマッチング機会の提供。
- ファンドへの出資、ファンドとの協調による劣後ローンといったメザニン融資などに積極的に対応して地域企業をサポートし、地域活性化に貢献する必要。
- 日本経済の最大の課題は生産性の上昇。将来的な金利上昇への備えとしても、現在、企業の経営改革を支援することが必要に。